

第 12 回 災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2018/03/13)

テーマ：災害後の医療ニーズシミュレーション

場所：東北大学医学部6号館1階カンファレンス室（宮城県仙台市）

第 12 回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催し、同大学医学系研究科・産業医学分野の五十嵐侑先生に「危機事象発生時の産業保健ニーズ」というテーマでご講演を行って頂きました。

五十嵐先生は、株式会社リコーに産業医としてご勤務の傍ら本学大学院に在籍し研究に取り組んでおられます。産業医科大学産業医実務研修センターに在籍中、災害時危機事象発生時の企業や自治体等が如何に従業員の健康の維持・向上に取り組むべきかという課題に取り組み、災害発生時の企業継続計画（BCP）を裏打ちする形で、従業員の健康を守るために必要な対応を参照するための「産業保健スタッフ向け危機対応マニュアル」の策定に関わられました。

同セミナーでは企業の危機事象の概念や産業医の平時の役割の紹介の後、災害時を含む企業において危機事象が発生した際に復興・復旧の原動力となる支援者・労働者の健康リスクについて解説を頂きました。また、企業が事業活動を継続する中で直面しうる様々な自然災害、工場災害、テロ、新興感染症等に対する BCP の策定状況や BCP における産業保健専門職の位置づけ、災害時を含む企業において危機事象が発生した際に、必要な対応を参照するための「産業保健スタッフ向け危機対応マニュアル」の作成の経緯と活用方法などのお話を伺いました。

講演後には当研究所の丸谷浩明教授(減災社会実装ユニット)から産業医の意見がより BCP や企業全体の災害対策に生かされる上での考慮すべき点、奥村誠教授(減災・復興支援技術ユニット)から想定外の事象への備えにつき、問題提起・議論がなされた他、エビデンスベースに基づくプロトコルの作成のあり方、被災地域での自治体のメンタルヘルスや企業におけるメンタルヘルスの現場経験者から実効性のある従業員の健康管理に向けた対策についての質疑応答がある等、活発な討論を経て議論が深まりました。今後、学際連携により、災害後の労働者の健康リスクにより有効に対応していけるような学術レベル、現場レベルでの取り組みが進むことが期待されます。



会場の様子



五十嵐先生